

2015年3月号

3月15日(日)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 222



雪国のような温根内…

ほぼ毎週のようにやってくる暴風雪により、普段は雪の少ない冬の温根内が雪国のようなようです。

3月に入り、一日の最低気温がプラスになる日も多くなり、少しずつですが、春の兆しも見えてきています。雪が解けて見え始めた水面ではタンチョウがエサを探す姿が頻繁に見られるようになりました。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【フキノトウ(アキタブキ)】
キク科 秋田蓆
いち早く雪が解ける鶴居軌道跡の湧水沿いで見られます。今年は雪が多いので、いつもより顔を出すのが遅くなりそうです。



【ドクゼリ (根茎)】
セリ科 毒芹
やちまななどの開水面には小さな竹の子の様なドクゼリの根茎が浮いています。7月に白い花を咲かせますが、猛毒なので注意が必要です。



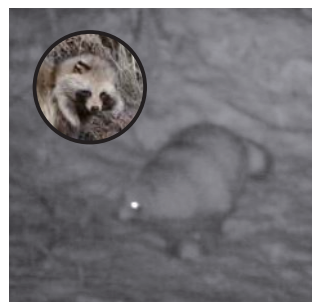
【サワシバ (冬芽)】
カバノキ科 沢柴
鶴居軌道跡の遊歩道沿いに見られます。細長く、たくさんの芽鱗を付けた特徴的な冬芽が芽吹くのは5月上旬です。



【カラフトノダイオウ】
タデ科 樺太野大黄
氷の解けた水中から赤く尖った小さな葉が出てきました。7月半ばに地味な花を咲かせるこの植物は絶滅危惧Ⅱ類(VU)の貴重な植物です。



【酸化鉄の被膜】
湿原の水面に浮いている油のようなものは酸化鉄の被膜です。水に溶けている鉄分を鉄バクテリアが分解する事により、このような被膜ができます。



【エゾタヌキ】 イヌ科
短い脚でトコトコと歩くエゾタヌキはとても臆病で、姿を見る機会は少ないですが、動きを感知してシャッターを切るセンサーカメラにはたびたび写ります。

※先月号のハンノキの実の紹介で、「実の中のたくさんの種子」と書きましたが、正しくは松ぼっくりの様な球果状の果穂の中にある「実」でした。お詫びして訂正いたします。ご指摘いただいたT先生、ありがとうございました。

○表紙の写真 上: 湿原のキタキツネとタンチョウ 中右: アトリとマヒワ 中左: 大雪のビジターセンター 下: フキノトウ

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

鳥たちの動きが騒がしくなってきました。森の中ではカラ類のさえずりが始まり、渡り鳥の北帰行も始まっています。ビジターセンターでは無料で双眼鏡を貸し出ししています。お気軽にご利用ください。



【タンチョウ】 丹頂
ツル科 留鳥
鶴居軌道跡の湧水地で採餌している姿が見られます。繁殖期を控え、そろそろ営巣場所を探してこの周辺を物色しているようです。



【アトリ】 花鶏
アトリ科 旅鳥
温根内には北へ帰る途中で立ち寄ります。今年は大きな群れがやってきて、鶴居軌道跡の湧水地で採餌している姿が見られました。



【カケス(亜種ミヤマカケス)】
カラス科 漂鳥 樺栄・懸樂
聞きなれない猛禽の様な声でしたので探してみるとカケスでした。声真似が上手いカケスがトビカノスリの声を真似したようです。



【ヒヨドリ】 鶉
ヒヨドリ科 留鳥
「ピ～ヨ、ピ～ヨ」と大きな声が特徴的なヒヨドリは鶴居軌道跡沿いで見られます。英名は「Brown-eared Bulbul」。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥(2月15日～3月14日) ※和名は日本鳥類目録第7版の順

■ヒシクイ ■マガン ■タンチョウ ■トビ ■オジロワシ ■オオワシ ■ノスリ ■ケアシノスリ ■コゲラ ■アカゲラ ■カケス ■ハシボソガラス ■ハシブトガラス ■ハシブトガラ ■シジュウカラ ■ヒヨドリ ■エナガ ■ゴジュウカラ ■キバシリ ■トラツグミ ■ツグミ ■アトリ ■カワラヒワ ■マヒワ ■ベニヒワ ■ウソ ■シメ

○今シーズンの温根内の冬は異常?それとも…

〔温根内ビジターセンター指導員 本藤泰朗〕

温根内に新雪が積もると、誰よりも先に木道を歩いて足跡を付けるのを楽しみにしているのですが、今年の冬は一番乗りを他の人に譲る日々が続きました。

北海道東部鶴居村の冬は、西高東低の冬型の気圧配置が続くと北北東の風が吹き、千島火山帯や日高山脈を越えて吹く風が山を越える際に乾燥し、突き刺すような冷たく乾いた風が吹き、雪が少なく、抜けるような気持ちの良い晴れ間が多いのですが、今期は様子がずいぶん違いました。鶴居村の積雪深は95cm(3/8時点)。平年値の38cmと比べると2.5倍も雪が積もっています。



暴風雪による倒木(鶴居軌道跡)

今シーズンの冬は1月上旬から2月にかけて平年と比べ暖かく、最低気温が-20℃を越える日は温根内でわずか2日間しかありませんでした。大陸の寒気が弱く、低気圧の通り道となる寒気と暖気の接触面が北海道に近づき、道東の南岸を低気圧が発達しながら

通過することが多く、そのたびに大雪と暴風をもたらしました。重く湿った雪と暴風の組み合わせで、木道沿いは倒木が相次ぎ、撤去するまでの間、鶴居軌道跡の一部を通行止めにしたため、暴風雪による臨時休館が5日間もある異常な冬でした。北海道新聞では3月1日の1面で12月から2月までに10回の爆弾低気圧が北海道に接近したと報道しています(3月に入り既に2度の低気圧通過で大雪と暴風雨になりました)。



2014年2月のヨシ湿原



2015年3月のヨシ湿原

職員泣かせの今年の冬ではありましたが、冬の温根内

を楽しむには絶好のコンディションでした。例年立ち枯れたヨシが数多く見られる湿原も、湿った大雪と強風により枯れヨシが倒れ、木道は完全に雪で埋まり、どこまでも見通せるようになった雪原の風景は目を見張ります。この様子だと花のシーズンも見晴らしの良いお花畑が期待できます。また、例年3月上旬には雪解けできなくなってしまう歩くスキーやスノーシューも、平年の



大雪に埋もれた看板

の2.5倍の積雪のおかげで3月下旬まで楽しめます。

ただ、この冬の異常気象が地球温暖化による

気候変動が原因で、今後もこのような傾向が長期的に続くとなると喜んでばかりはいられません。除雪作業の回数が増えることはさておき、長い目で見ると環境が変わり、風景も変わり、生態系も変化してしまうかもしれません。

こんなことを考えながらビジターセンターから駐車場までの長い階段に積もった大雪を除雪していると、雪を楽しみにしていた親子連れが「歩くスキーできますか？」とやってきます。「誰も歩いていないからふかふかで気持ちいいですよ。」と笑顔で答えながら、内心「先を越された！」と、少し悔しい思いをすることが多い今シーズンの冬でした。

〔参考：北海道新聞 気象庁HP 釧路湿原（釧路叢書第18巻）〕



木道と湿原の境がなくなり、一面の雪原になりました。

☆☆☆☆イベントのご案内（4月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪早春の湿原ハイク

〔日時〕4月12日（日）10:00～12:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

釧路湿原の環境や成り立ちなどを中心にお話ししながらゆっくりと歩き、一見何もないように見える早春の湿原で目立たない春の気配を探しましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪春のバードウォッチング

〔日時〕4月18日（土）10:00～12:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔集合場所〕憩の家かや沼駐車場

渡り鳥たちは繁殖地に向かって長い旅をしている季節です。渡り鳥の中継地シラルトロ湖周辺で、講師の解説を聞きながら野鳥観察を楽しみましょう。

～開館時間が変わります～

4月1日より開館時間が変更になります。夏季（4/1～10/31）の開館時間は午前10時から午後5時までです。夏時間とはいえ、まだまだ寒い日が続きます。木道を歩く際には防寒対策を十分に行いましょう。



月刊 温根内通信 No.222

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/

Facebook：https://www.facebook.com/Onnenai.VC

開館時間：10:00～16:00（4月～10月は17:00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料